

鳥羽の

海女小屋

7つの海女集落に建つ、
40の海女小屋のドローイング展。



鳥羽市立 海の博物館ギャラリー企画展

鳥羽の海女小屋 展 Ama Hut in Toba

2024.4.13 | 土 | — 2024.6.23 | 日 | TOBA SEA-FOLK MUSEUM

時間：9:00-17:00（最終入館は閉館の30分前まで）／入館料（海の博物館）：大人個人800円・大学生以下400円／HP：umihaku.com

会場：鳥羽市立海の博物館ギャラリー（三重県鳥羽市浦村町大吉1731-68）／TEL：(0599) 32-6006

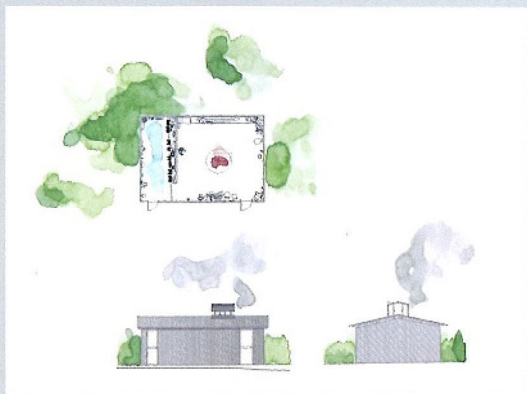
主催：大井隆弘（三重大学）・浅野聡（國學院大學）+三重大学大学院工学研究科大井研究室（鈴木航太・奥村玲那・大北拓真）

後援：鳥羽市・鳥羽市教育委員会

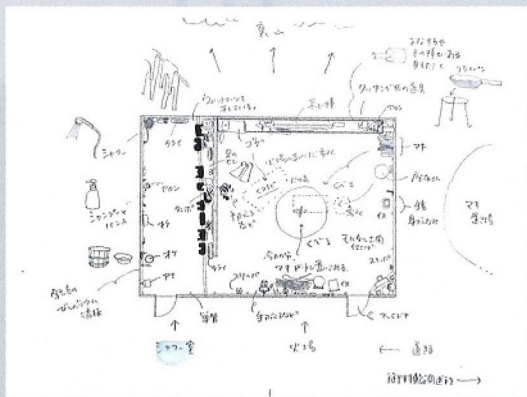
鳥羽の海女小屋 展 Ama Hut in Toba

三重県鳥羽市は、全国で最も多く海女が活躍する地域です。三重大学では、2018年度から「鳥羽市景観計画」の策定と並行し、「海女集落らしい景観とはどのようなものか？」を課題として、景観に関する調査を進めてきました。対象とした集落は、特に海女が多く活躍する石鏡、国崎、相差、答志、和具、菅島、神島の7集落です。調査では、3000棟を超える建築物の形態、形状に関する分析、建設時期の古い民家、海女小屋、社寺などの実測調査、公共施設やサイン等の分布や内容の確認などを実施してきました。調査の結果は、令和3年に施行された「鳥羽市景観計画」にも反映され、7つの海女集落は鳥羽市にとって欠かせない大切な景観として「重点候補地区」にも指定されています。

この展覧会は、そのうち重要な景観資源である「海女小屋」の実測調査の結果を紹介するものです。調査では、建物はもちろん、海女さんが使用する道具類も記録しました。総数は7地区で約40棟。会場では、着彩した図面を中心に展示します。会期中には2つの講演会も企画しましたので、ふるってご見学、ご参加ください。



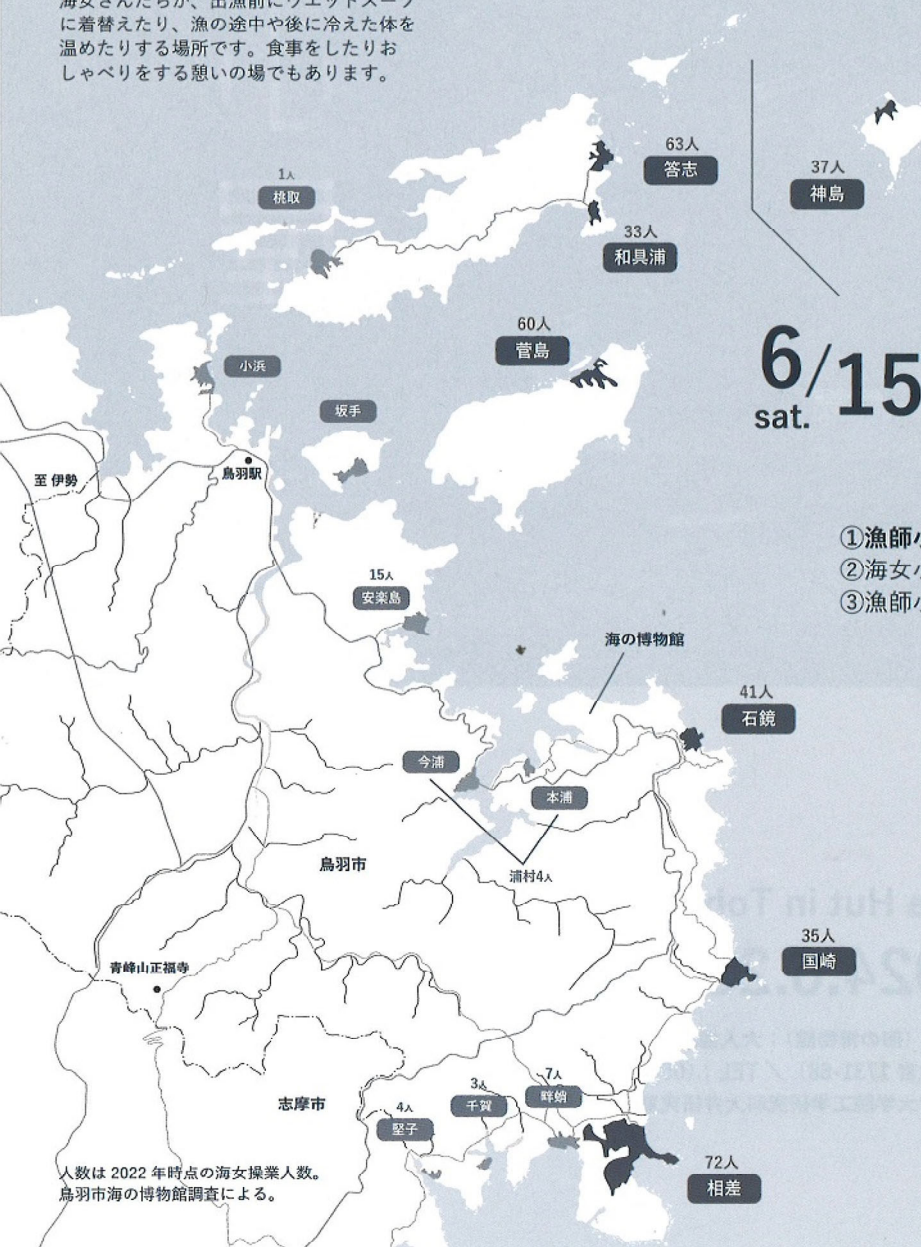
国崎町の海女小屋平面図・立面図



国崎町の海女小屋 詳細平面図

海女小屋とは…

海女さんたちが、出漁前にウエットスーツに着替えたり、漁の途中や後に冷えた体を温めたりする場所です。食事をしたりおしゃべりをする憩いの場でもあります。



人数は2022年時点の海女操業人数。鳥羽市海の博物館調査による。

6/8
sat.

講演会①安藤邦廣氏

筑波大学名誉教授 / 里山建築研究所主宰

生業小屋から海女小屋を考える

2024.6.8 | 土 | 13:30-

- ①全国の生業小屋に関する講演 (90分) : 安藤邦廣
- ②鳥羽の海女小屋実測調査結果報告 (30分) : 大井隆弘
- ③生業小屋から海女小屋を考えるディスカッション (30分)

海女小屋とは、どのような性格を持つ建物なのでしょうか。2つの講演会を通して、その位置付けや見方を考えます。講演会①では、全国の生業小屋に関する調査研究を行い『小屋と倉 / 干す・仕舞う・守る 木組みのかたち』(建築資料研究社, 2010)を著した安藤邦廣氏、講演会②では、震災復興の過程で石巻市の漁師小屋について詳細な実測調査を進めてきた小林良平氏にそれぞれお話をいただきます。

6/15
sat.

講演会②小林良平氏

ユナワゴアーキ 代表

漁師小屋から海女小屋を考える

2024.6.15 | 土 | 13:30-

- ①漁師小屋の実測調査から分かること (90分) : 小林良平
- ②海女小屋の誕生と変遷 (30分) : 大井隆弘
- ③漁師小屋から海女小屋を考えるディスカッション (30分)

講演会について：お申込みが必要です

- ・場 所：海の博物館 映像ホール
- ・定 員：講演会①②とも50名(要申込/先着順)
- ・参加費：無料(ただし海の博物館の入館料が必要)
- ・形 式：対面のみ・オンライン配信なし

申込みフォーム

右のQRコード読み込んで、専用フォームから講演会①②にお申し込みください。



お問い合わせ

鳥羽市立海の博物館
〒517-0025 三重県鳥羽市浦村町大吉 1731-68
TEL (0599) 32-6006 FAX (0599) 32-5581